

3. 影響評価結果

各分野の影響評価方法により、シミュレートした結果を以下に示す。

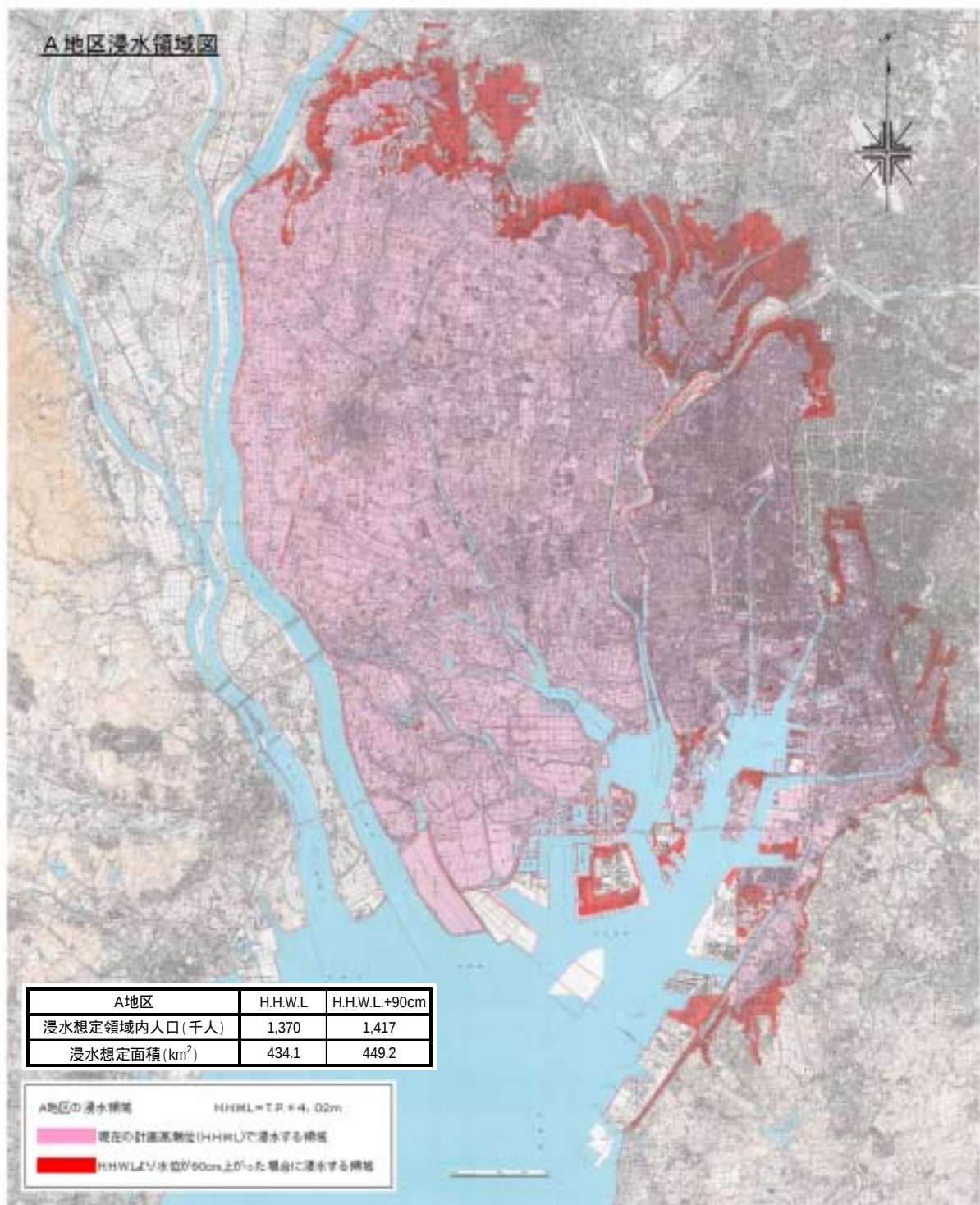
(1) A地区

A地区影響評価結果



道路については、海岸・河川堤防が影響を受ける区間について破堤したと仮定し、海面上昇後の水位まで湛水するという前提で冠水する区間を影響有りとした。

A地区浸水領域図



未整備区域が残されているため、現況潮位（H.H.W.L.）での評価は現況施設で評価したが、水位上昇後（H.H.W.L+90 cm）については、現行計画施設の整備が完了しているものとして評価。

現在の計画高潮位（H.H.W.L）で浸水する場合と H.H.W.L より水位が 90cm 上がった場合に浸水する領域を図示。

A地区影響評価結果

海面上昇による影響評価結果（施設延長及び施設数）

検討対象施設			単位	検討海面上昇値				検討対象	備 考
				+0.1	+0.3	+0.5	+0.9		
浸水想定領域内人口			千人	1,370.0	1,386.0	1,404.6	1,417.4	-	
浸水想定領域内世帯数			千世帯	480.2	485.8	492.2	496.6	-	
浸水想定被害額			兆円	21.1	21.4	22.8	23.1	-	
海岸	堤防・護岸		k m	0.0	2.5	2.5	2.5	40.7	
河川	堤防	庄内川	k m	8.8	9.0	9.4	10.2	-	
		新川	k m	12.6	13.2	13.8	15.0	-	
		堀川	k m	13.6	13.6	13.6	13.6	-	
		天白川	k m	3.6	4.0	4.4	5.0	-	
	水門等		個所	1	1	1	1	1	堀川口防潮水門（海岸施設）
	排水機場		個所	0	0	0	1	1	
	橋 梁		個所	0	0	0	2	21	現状で余裕高不足：4 鉄道橋は除く
港湾	岸壁・物揚場		k m	1.5	2.7	4.1	7.8	34.6	
	護 岸		k m	4.7	8.8	25.9	34.9	112.0	
	防波堤		k m	11.2	11.2	11.2	11.2	11.2	
下水道	下水処理場		個所	0	0	0	1	13	
	ポンプ場		個所	0	0	0	0	15	
道 路			k m	37.9	38.0	38.0	38.4	49.6	

各数値は累計値

海面上昇による影響評価結果（割合）

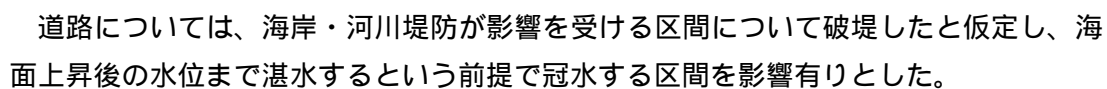
検討対象施設		単位	検討海面上昇値				検討対象	備 考
			+0.1	+0.3	+0.5	+0.9		
海岸	堤防・護岸	%	0%	6%	6%	6%	100%	
河川	水門等	%	100%	100%	100%	100%	100%	
	排水機場	%	0%	0%	0%	100%	100%	
	橋 梁	%	0%	0%	0%	10%	100%	現状で余裕高不足：4 鉄道橋は除く
港湾	岸壁・物揚場	%	4%	8%	12%	23%	100%	
	護 岸	%	4%	8%	23%	31%	100%	
	防波堤	%	100%	100%	100%	100%	100%	
下水道	下水処理場	%	0%	0%	0%	8%	100%	
	ポンプ場	%	0%	0%	0%	0%	100%	
道 路		%	76%	77%	77%	77%	100%	

各数値は累計値

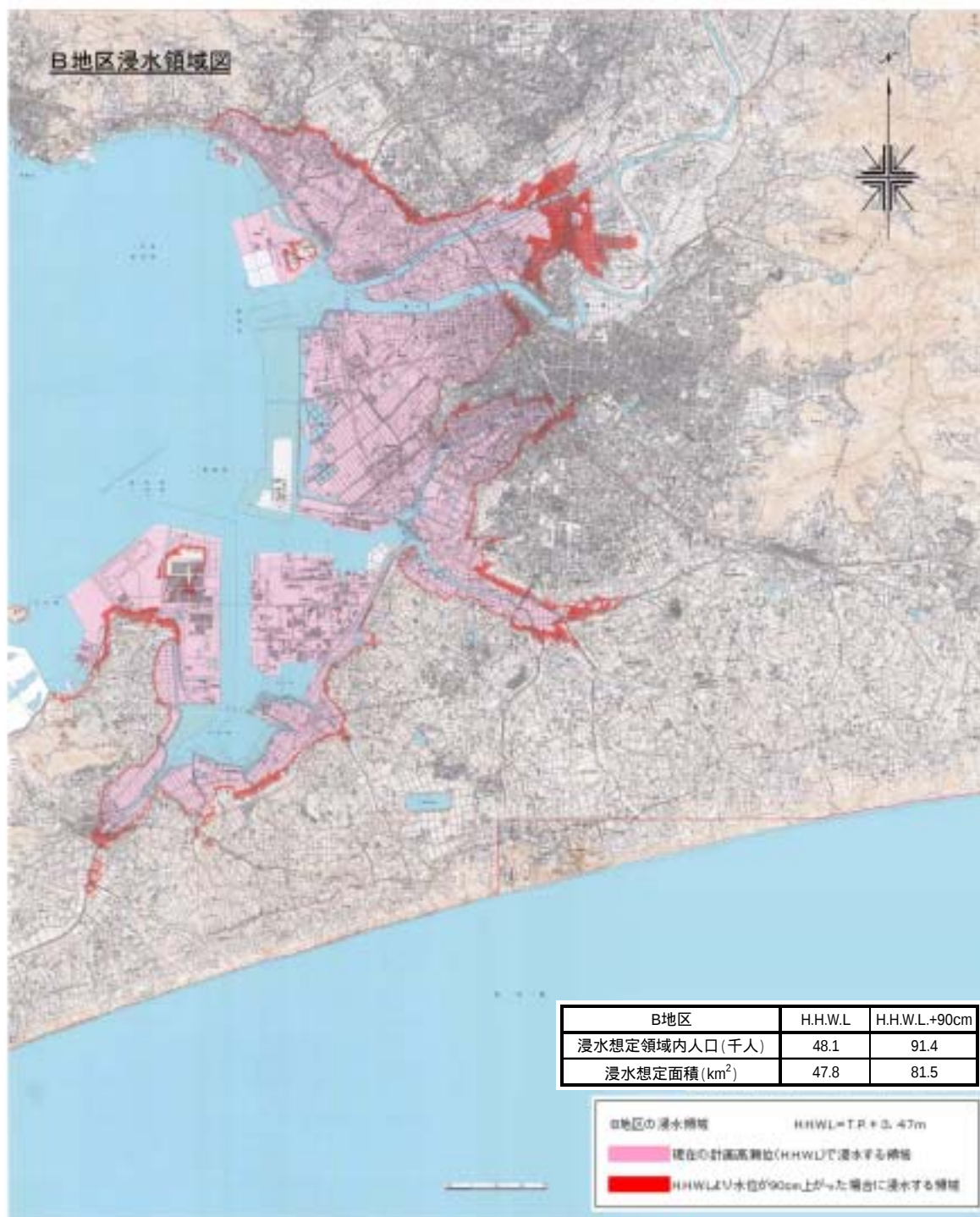
被害の特徴

- ・都市部を含め低平地が広がっているため、被害額は大きい。
- ・低平地が広がって河川の河床勾配が小さいため、海面上昇による影響が比較的上流まで及ぶ。
- ・海岸施設は+0.3mで影響が生じる。その後影響は拡大しない。
- ・河川施設は+0.1mから長い区間にわたって影響が生じている。
- ・港湾施設は水位の上昇に伴い影響が増大する。
- ・下水道施設は+0.9mで影響が生じる。
- ・道路施設は+0.1mで影響区間が長い、その後あまり変化しない。

B 地区影響評估結果



B地区浸水領域図



未整備区域が残されているため、現況潮位（H.H.W.L.）での評価は現況施設で評価したが、水位上昇後（H.H.W.L+90 cm）については、現行計画施設の整備が完了しているものとして評価。

現在の計画高潮位（H.H.W.L）で浸水する場合と H.H.W.L より水位が 90cm 上がった場合に浸水する領域を図示。

B地区影響評価結果

海面上昇による影響評価結果（施設延長及び施設数）

検討対象施設			単位	検討海面上昇値				検討対象	備 考
				+0.1	+0.3	+0.5	+0.9		
浸水想定領域内人口			千人	49.8	53.2	66.5	91.4	-	
浸水想定領域内世帯数			千世帯	15.2	16.3	20.9	29.2	-	
浸水想定被害額			兆円	1.2	1.4	1.7	2.2	-	
海岸	堤防・護岸		k m	0.0	0.0	0.0	1.2	20.3	
河川	堤防	豊川	k m	3.0	3.4	3.6	4.0	-	
	水門等		個所	0	0	0	0	0	
	排水機場		個所	0	1	1	1	1	
	橋 梁		個所	0	0	0	0	2	鉄道橋は除く
港湾	岸壁・物揚場		k m	0.2	0.8	1.6	7.4	11.8	
	護 岸		k m	0.0	0.1	0.1	2.0	55.2	
	防波堤		k m	6.2	6.2	6.2	6.2	6.2	
下水道	下水処理場		個所	0	0	0	0	2	
	ポンプ場		個所	0	0	0	0	3	
道 路			k m	2.7	2.7	2.7	2.7	6.7	

各数値は累計値

海面上昇による影響評価結果（割合）

検討対象施設		単位	検討海面上昇値				検討対象	備 考
			+0.1	+0.3	+0.5	+0.9		
海岸	堤防・護岸	%	0%	0%	0%	6%	100%	
河川	水門等	%	0%	0%	0%	0%	なし	
	排水機場	%	0%	100%	100%	100%	100%	
	橋 梁	%	0%	0%	0%	0%	100%	鉄道橋は除く
港湾	岸壁・物揚場	%	2%	7%	14%	63%	100%	
	護 岸	%	0%	0%	0%	4%	100%	
	防波堤	%	100%	100%	100%	100%	100%	
下水道	下水処理場	%	0%	0%	0%	0%	100%	
	ポンプ場	%	0%	0%	0%	0%	100%	
道 路		%	40%	40%	40%	41%	100%	

各数値は累計値

被害の特徴

- ・豊橋市の中心部の標高が比較的高いため、被害額は小さい。
- ・海岸施設は+0.5mまでは影響が生じないが、+0.9mで影響が生じる。
- ・河川施設は+0.1mから影響が生じるが、影響区間は短い。
- ・港湾施設は水位の上昇に伴い影響が増大する。
- ・下水道施設への影響は小さい。
- ・道路施設は+0.1mで被害ポテンシャルが大きいが、その後あまり変化しない。